

12/13 <講演会>「岐路に立つメディア ニュースの未来はどうか」
(産経新聞×産業研究所連続講演会「関西の地域振興と国際化」第3回(全4回)報告)

2019年12月13日(金)に産経新聞取締役(編集・デジタル戦略担当)の鳥居洋介氏をお招きして、産研講演会「岐路に立つメディア ニュースの未来はどうか」を開催いたしました。

紙の新聞の購読者が激減している今、新聞社にとって、デジタルへのシフトが喫緊の課題となっています。「シンブンDX」をキーワードに、1. 新聞部数減と人間の寿命、2. 海外メディアのDXから学ぶ、3. 産経新聞のDX戦略、をテーマにお話しいただきました。

今、紙の新聞を購読している人のほとんどが団塊の世代と言われ、人間の寿命を考えれば、5～10年のうちには紙の新聞のビジネスモデルは崩壊してしまうことが予見されており、紙のビジネスモデルからデジタルのビジネスモデルに転換することが新聞が生き残る唯一の道であるとの考えを示されたのち、デジタルへのシフトに成功した事例として、米国のニューヨーク・タイムスとワシントンポストをあげ、一次は経営危機に瀕した両社がいかにデジタルイノベーションによりよみがえったかについて、紹介されました。また、海外では、新聞の購読者を読者(Reader)としてではなく顧客(Customer)ととらえ、その足跡をとらえてマーケティングを行っており、それこそがDXの肝であると解説されました。

最後に、新聞社を取り巻く現状は減収減益であり、新しい収益媒体を創りだすことや新聞社で働く者の意識(マインドセット)を変えることが課題であることを示され、産経新聞社も総合デジタルメディア企業に転身するという目標のもと、目下DX委員会を立ち上げ、具体的に2つの取り組みをはじめていることについて紹介がありました。1つめは東京オリンピックまでに有料の新しいウェブニュースサイトをスタートさせるという硬派の取り組みであり、もう1つは、サンケイスポーツのウェブサービスを刷新するという軟派の取り組みで、この2つの展開により、収益の極大化を目指すものである、との解説がありました。

*DXはDigital Transformationのこと。TransはXと略される。

(この講演会は経済学部開講「経済事情F(担当教員:アンナ・シュラーデ准教授)」の一環として開催いたしました。)

■参加者:37名



産経新聞取締役(編集・デジタル戦略担当) 鳥居洋介氏